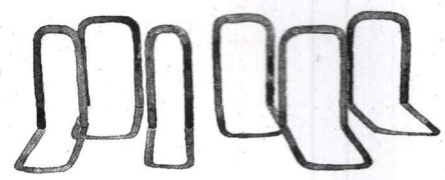


朝日歌壇



長谷川 福選

- パロックの音楽高し春の雲 (稲城市) 日原 正彦
- 太陽と一対二や野に遊ぶ (伊万里市) 萩原 豊彦
- ☆恋猫の幽体となつて戻りけり (一関市) 砂金 眠人
- 運き日や吾も汝も古りし竹箒 (東京都江戸川区) 高木 靖之
- 梅散つて桜待つ間の花杏子 (東京都世田谷区) 松木 長勝
- 花冷えやうどんの暖簾列をなす (明石市) 高島 文子
- 鐘の音に桜一片大空へ (東京都中野区) 日向友紀子
- 寝ながらに世界を愛ふ春の風邪 (町田市) 藤巻 幸雄
- 足腰を鍛へて桜待つてをり (福岡市) 釋 蛸硯
- 妻の日にせむとて求む花ミモザ (東京都府中市) 志村 耕一

【評】一席。たとえばパッハのパイプオルガン曲。そんな荘厳な響き浮かぶ。二席。空の太陽と二人。小さな人間の気概がい。三席。猫の肉体から漂い出た恋する魂。ふらふらとさまようように。十句目。ミモザの花の照らす食卓。妻に乾杯！

大串 章選

- 人生の終着駅のうららかな (福島県伊達市) 佐藤 茂
- 残されて今は一人の花見かな (合志市) 坂田美代子
- 老人となつて母校の桜訪ふ (相馬市) 根岸 浩一
- 人類の戦に飽いて亀の鳴く (さいたま市) 関根 道豊
- 巢箱朽つ少年故郷出でしまま (さいたま市) 齋藤 真人
- 集落を懐に入れ山笑ふ (東かがわ市) 桑島 正樹
- 文庫本三冊選び春の旅 (東京都大田区) 黒崎 康夫
- 帰らざる友と語りふ春の海 (小城市) 福地 子道
- 校庭の風を見てゐる卒業生 (静岡市) 松村 史基
- 人生の卒業写真斎齋場に (筑紫野市) 二宮 正博

【評】第1句。最晩年を麗らかに過ごし、穏やかに天国へ旅立つ。生まれてきてよかったですね。第2句。「一人の花見」を謙虚に受け止め、人生を全うしましょう。第3句。年を取るといよいよ母校の桜が恋しくなる。今年も見ることが出来て幸せ。

高山れおな選

- 夜桜は飛び出す絵本かもしれぬ (香川県まんのう町) 佐藤 浩章
- 鷹化して鳩となるしてトランプは (相市) 小畑 昌司
- コッパンなんでも挟む山笑ふ (香芝市) 土井 岳毅
- 春泥の世界史ひらく深夜かな (東京都練馬区) 吉竹 純
- 口笛でうぐひすの真似しあはせか (長崎市) 里中 和子
- ☆恋猫の幽体となつて戻りけり (一関市) 砂金 眠人
- 砲台は島の天辺鼓草 (横須賀市) 渡辺伊世子
- 横顔が好きと言はれて四月馬鹿 (我孫子市) 藤崎 幸恵
- 弓なりに春の渚の街灯る (柏崎市) 阿部 松夫
- 一羽と二羽とも聞こゆ初音かな (津市) 森川はづき

【評】佐藤さん。「飛び出す絵本」は、夜桜の物質感を捉えて説得力のある比喩だろう。小畑さん。接続詞「して」を上手に使った。ほんとに「して」どうするのかね。土井さん。コロケ、焼きそば、卵サラダ……。なるほど何でも挟むなあ。

小林 貴子選

- 三鬼忌の派手目に結ぶ蝶ネクタイ (甲府市) 村田 一広
- 問い直し問い直されて永き日を (岐阜県揖斐川町) 野原 武
- 句にはせず眺めるだけに春の月 (横浜市) 西山 順泰
- 桜湯やどこへもゆけぬ母に咲く (越谷市) 新井高四郎
- 花びらのリバーシブルや紫木蓮 (所沢市) 高橋裕見子
- 鳥帰る蛇行の川に声落とす (川越市) 佐藤 俊春
- めんたうな世間なりけり亀の鳴く (佐賀県基山町) 古庄たみ子
- ほごかるるりぼんのかたち水ぬるむ (アメリカ) ケビン パーロール
- 檜櫓春林萌黄色 (佐倉市) 松平 武史
- 病床で句を練る業や涅槃西風 (大田市) 岡島要一郎

【評】一句目、独自の句で今も人気の三鬼には、蝶ネクタイの写真も残されている。二句目、人とまたは自分と、解決を模索したい問いばかり。三句目、たまには作句しようと思わずに。四句目、茶碗の中に開く一輪の桜がきれいな、お母さん。

〈公園〉 北村さゆり

うたをよむ 春のんびりいこう 竹中 優子

四月から環境が変わるといふ人はたくさんいるだろう。進学して上京する学生なんかを思い浮かべる。先日、子の進学と夫の単身赴任が重なり二十年ぶりに一人暮らしになるという同僚の話聞いて、年代によってはそういう変化もあるのかと知った。

出勤の車の中で泣くような春になっても春は好きだな 川上まなみ

『日々に木々とき風が吹いてきて』車で通勤をしているなんて、大人だなあと思う。チャリンコで遊び回った頃とはもう別人だ。大人が泣いている。仕事でつらいことがあるのだろうか。そりゃあ、ある。嫌にならへんらいある。泣いて温まった体で少しだけぼんやりしてみる。浴槽は海に繋がっていません。だけどいちばん夜明けに近い 馬場めぐみ

『無数を振り切っていけ』新しい日々の中で、眠れずに硬く自分を抱いて夜を過ごすことがあるかもしれぬ。夜明けの近さを感じる瞬間は、たんにやっつていきましょう。(歌)

だ苦しいだけの無為な時間なのかもしれぬ。確かなものがない今が、いつだって怖い。

選ぶとか選べないとかぼぼぼん常に何かを踏んで走ると 『母の愛、僕のラブ』 柴田葵

何かを選ぶことが何かを捨てることだったり、退屈で単調なものが本当は大切だったり、唐突に大事なものが大事じゃなくなったり、嫌だ嫌だと言いつつ何かが続いていたたり、風邪をひいたり治ったりしながら、新しい何かが始まっていく日々をこれから私たちは過ごす。(歌)

「朝日歌壇2025」「朝日俳壇2025」 昨年の「朝日歌壇」「朝日俳壇」の掲載作品をまとめた毎年恒例のシリーズ最新版。「歌壇」は各選者の年間秀歌10選・朝日歌壇賞と総評、「俳壇」は各選者の年間秀句10選・朝日俳壇賞と総評を掲載。ASA(朝日新聞販売所)を通じて購入できます。(朝日新聞出版・各3080円)

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(週に2作品まで)。QRコードから。

